

TGU 体育会 監督会報

2003年を迎えて

監督会長 工藤 哲男

明けましておめでとうございます。

指導者の皆さんにおかれましては、今年の強化策を練っており、今年こそは良い成績を残すことを念じていると思います。

さて、監督会におきましても、今までにさまざまな要望を取り上げ、少しでも体育会の学生がより良い環境のもとで切磋琢磨して学生生活を送ることができるよう努力してきました。しかしながら、今の状況で必ずしも良いとは思えません。もっと他大学に見られるようなアフターケアを考えなければ体育会発展の多くは望めないと思います。

例えば授業の問題ですが、その科目によっては3回の欠席で除籍されるということで、春の青山学院、北海学園の定期戦、東北地区大学総体だけでアウトになる現状です。また、原級止になれば選手として今後の障害になることは明白です。体育会の学生にもっと勉学に励む場を多く持たせることも教育の一環だと思いますし、落とすことよりも上げる教育の方がもっと効果が上がると思います。そうすることによって、優秀な選手がもっと入学し、母校の名誉と名声のため頑張ると信じます。そして大学の活性化に繋がると思います。

以上のようなアフターケアをできるだけ考慮していただけるならば学生も伸び伸びと練習に励むこともできるし、大会でも優秀な成績を上げることができると思います。

これからの大学の生き残り策としても、学術、文化、スポーツの多用な人材を輩出するようになればと思いつつ、将来、東北学院大学が立派に成長されんことを望む次第です。

学生部長 柴田 良孝

新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いたします。

さて、昨年も学生の澁刺とした活躍に学内外が大いに沸いた一年でなかったかと思えます。学生の生き生きとした姿は、大学の原点であり、その意味での体育会学生の活動は、大いに賞賛されるべきものと思われま。

一方、体育会発展のためには、改善されるべき点がまだまだ多くあると思います。強化指定

部の制度も今年で四年目、点検の時期を迎えております。そして、強化部にとどまらず、いわゆる勉強との両立という基本的なスタンスを保持しながら、どこまで強化できるのか、どうすれば強化できるのか。古くて新しいこの問題に、思いを新たにして立ち向かって行かなければならないと思っていますところでは。

平成16年度には、北海学園大学との定期戦が50回を迎え本学が主管です。本年は、そのための準備が本格化します。

いずれにいたしましても、本年も変わらぬご指導、ご鞭撻を、監督の皆様方をお願いいたします。

体育会長 渡部 敏

新春おめでとうございます。昨年中は大変お世話になりました。深く感謝いたしております。体育会52年目に向かってひたすら邁進したいものです。我が国の経済状況は出口の見えない状況ですが、最終的には体力、気力、知力が勝負を決することでしょう。

現在の若者の考え方が分からないと嘆く声がありますが、一方、体育会所属で順調に育った選手は何者をも恐れず苦難に打ち勝って結果を残すことができます。その道は険しいけれども、そこに指導する監督と指導を受ける選手の深いつながりが生ずるのです。

言葉では文武両道といますが、そんなに易しい道ではありません。しかし、道はあるはずで、その指導を上手く・あたかも指導していないような形で指導するということが効いてくるのではないのでしょうか。

昨年、各種の部が創立五十周年を迎えました。そこに出席をさせていただき感ずることは、何かを部活動を通して受け継ぎ、受け渡すという形がしっかりしていることです。目前の先輩と後輩ですが、何かを残しつつ後輩に後事を託した結果が積み重なっていました。これは伝統のコピーでもあり、伝統の新たなる創造でもあるのでしょうか。このコツコツとした歩みを、ぜひ本年度もご指導の中で育んでいただきたいと思います。宜しく申し上げます。



各部の監督から・・・

サッカー部監督 松原 悟

サッカー部近況報告

今年度は優勝こそできなかったものの、3年連続で全国大会出場を達成しました。東北から

の出場枠が1つしかなく、例年厳しい戦いが強いられます。かつ、サッカー競技の普及によって、東北各大学のレベルは年々アップしております。今年度の4年生は、1年次に大学地区総体優勝、宮城県サッカー選手権大会優勝、2年次に全国大学サッカー選手権大会出場、3年次に総理大臣杯出場と、先輩の後姿を見て育ち、「自分たちも」というプレッシャーとよく戦ってくれました。おまけに、7月中に全員が就職を決めることができ、学生としても立派でした。この姿を見てきた3年生以下は、全国大会終了後も2日間の休みで、新チームの活動を再開し、新年度の新たな目標（全国大会への出場と、一回戦突破）に向けスタートできました。「試合終了のホイッスルは、次の試合に向けてのスタート」を実践しております。今後ともサッカー部の活動にご声援ください。

山岳部監督 遠藤 繁

47歳の若手（冬の朝日連峰を満喫）

11月中旬に、東北で一・二を争う大きな山、朝日連峰に行ってきました。

メンバーは当クラブOBでつくる「TG山岳会」の20数名。例年であればこの時期、稜線にうっすらと雪が付いている程度のはずが、今年は麓から雪。おかげで、30センチ以上積もった雪道を4輪駆動車で突き進むが、登山口までも辿り着けず。車を乗り捨てワカン（靴に付け、沈みを防ぐ）に履き替え、初めからラッセル（深い雪の中を歩くこと）に突入。ラッセルは体力を極度に消耗するため、トップを随時替わり高度を稼ぐ。今回のメンバーは上は70歳、下は47歳の私。先輩たちの体力に感心しながら、腰まで潜る雪の中で格闘すること4時間、目指すピークに辿り着いた。無風・快晴！目の前には純白の朝日連峰の稜線が連なり、遠くに月山・蔵王連峰・大東岳（秋保の奥にある山）を眺望。ラッセルで流した汗を拭きながら、現役1年生の気持ちで昼食の準備。年に数回、現役の指導で山に入るが、山登りの楽しさはやっぱり、自分達の目標に向かって汗を流し、それに到達することだろうか。それにしても、先輩たちの体力には驚くばかりである。

自転車競技部監督 佐藤 正

昨シーズンを振り返って

新年明けましておめでとうございます。

14年度も例年通りにシーズンに向け、基礎体力向上のサーキットトレーニングに始まり、新入生を迎えての春季ロード合宿をいわき市で張り、特に9月に行なわれるインカレに目標をおいて各大会を消化しました。しかしインカレまでの戦績は芳しくなく、そこでそれまでの一戦一戦をチェックし、選手個々が自分の反省点を以後の練習に取り入れながら、インカレ前にスピード練習と技術指導を中心とした2回の合宿を張り、集中力を高めてインカレに臨みました。戦い終わってみれば全員入賞、3位という予想以上の好結果を残すことができました。

振り返ってみますと、インカレ前の戦績を反省し、以後のトレーニングに自分自身により厳しい練習メニューを取り入れた結果の現れではないかと思う。今年も新年を迎え、監督として新たな気持ちで自転車競技を通じて学生として、また社会人として人間形成を指導し、また学生は特に学業と部活が両立できるよう意義のある一年にしたいものである。

柔道部監督 高橋 富士男

「柔道」から「ジュードー」へ

今年も新年を迎え、今年こそ勝って美酒にありつきたいと指導陣ともどもに毎年のことながら思っているところです。

さて、今や国際柔道連盟（IJF）への加盟国は188ヶ国となりました。国連加盟国が190ヶ国と言いますからほぼ同じ数の国が加盟している勘定となります。昔は日本の独断場で威張ってたもんでしょうが、今や海外のほう盛んなくらいで、我が柔道部も4年に1回、フランスへの遠征を行なっているのですが、学生はみなそのたびにその柔道熱に驚かされることとなります。フランスでは道場経営で生計を立てている指導者も少なからずおります。多分日本では道場経営で食ってるひとは一人もいないでしょう。スポーツが地域に根ざしてクラブ制度の確立しているヨーロッパと、学校、企業等に依存している日本のスポーツとの大きな違いがありますが、それにしてもすごいものです。チビッコから大人まで文字どおりの老若男女が楽しみながらの場面には毎回のことながら「日本はナンカおかしい」とさえ感じさせられます。

だからというわけではありませんが、我が柔道部では昨年の秋から、地域クラブ的な道場の一般開放を呼びかけております。昔を思い出してとか、子どもと一緒に柔道をしてみたい、とか理由は何でもいいのです。土曜日の夕方から「昼に上がってみませんか」というキャッチフレーズですが、広報にそれほど力も入れていないので参加者がゼロの日もありますし、5、6名の日もあります。柔道の好きな人達が出身校など関係なく土樋の道場に気楽に集まってくれることを期待しております。数年前から「TGクラブ」として全柔連にもクラブ登録しておりますし、肩の力を抜いたクラブとして活動していきたいと思っております。力んで指導するのは学生だけで充分であります。

さて、その本業の柔道部であります。先のスポーツ推薦で5名が合格しました。他大学と競合しながらも本学を志望してくれるなど全員が即戦力です。また、A0で合格したが入部させてもらえるか、などとこれまでになかったうれしい誤算もあり、ようやく復活に向けた体制が整いつつあるというところでありましょうか。

先日、ある教授と雑談する機会がありました。その先生いわく「今のウチの大学の売りは残念ながら何もない。学生も元気がない。やはりスポーツが頑張ってくれて全国の紙面を飾るようになってもらわないと学生の目は開かないし、母校に対して同窓生からの応援ももらえないよ」と。もちろんスポーツがすべてではないが、関係各位の相当のご努力で念願の強化部指定部制も導入されました。我が柔道部、東北地区予選通過ですら心中穏やかでない昨今の成績ではありますが、いい人材の確保により数年後には全国版の紙面に、と鼻息だけは荒いものであります。

ラクロス部 佐藤 和香

2002年度諸報告

3月～今年最初のイベントは、創部の頃からお世話になった志子田光雄先生の送別会から始まった。「4年生の追コンと一緒に私も追い出してください」と先生からのお言葉どおり、追コンとの同時開催とさせていただいた。当日は創設の一期生から学生に至るまでと、幅広い代で集まることができ、学生が準備してきた余興(?)に皆で楽しめた。思えば志子田先生には3年前、東北で初のラクロス国際親善試合の開催において多大なるご支援、ご協力をいただき学院のみならず東北ラクロス界の歴史においても重要な方である。退職されてしまうが今後とも試合がある時にはお声がけしようと思う。

6月～北海学園定期戦が2年ぶりに開催された。昨年は人数不足のため行なわず、今年もその尾は引いているものの、女子のみ人数ギリギリで開催までこぎつけた。私自身は定期戦を4年間毎年経験してきて、北海学園との交流を楽しんできたので、後輩たちにもその楽しさを知って欲しかった。東北学院は1,2年生中心の若手チーム、対する北海学園は3,4年生を中心とするフルメンバーであり、結果からいえば12-4の敗北であった。しかし後半は学院ペースの非常によい内容だったと思う。試合後もお互い交流していたようで姉妹校の縁は絶えていないようで安心した。新しい部長の三條先生にも応援いただき思い入れのある一戦となった。

9月～第9回ラクロスリーグ戦開幕

いよいよラクロスサーにとってビッグイベントの開幕である。夏休みも含めた練習の成果を発揮するときがきた。ところが・・

<男子のエキシビジョン参加>公式試合をするには、日本ラクロス協会会員登録をしなければならないが、期日までに登録していない者がおり、正式参加とはならなかった。しかし、1,2年生中心のこの若いチームは強豪東北大Bチームに勝つという快挙もあり、確実に来年に繋がる経験を残したと思う。

<女子決勝トーナメント出場>ギリギリの人数に悩まされながらも、ファイナルには残ることができた。3年生不在のこのチームは今シーズン序盤は主将の鈴木(唯一の4年)に頼りがちな内容が多かったが、序々に2年生の力も発揮されていくようになった。1年生も積極性があり、来年に大きく期待がかかった。

男女とも1,2年生中心というチーム構成に不安を感じることもなく正々堂々と戦うことができたと思う。そして、男子では経済1年の鈴木光太郎が新人王に、女子では経済4年の鈴木陽子がベスト12に選ばれるという快挙もあった。来年は男女とも優勝を目指し頑張っていけると確信した今シーズンであった。

112名の精鋭が合格!

平成15年度スポーツに優れた者の推薦入試により112名(文経法教)の合格者発表があった。おおむね予想された志願者数であったが、今回もまた各夜間主コースに欠員が生じてしまい残念な結果となってしまった。しかし、経済学科昼間コース、教養学部の人間科学専攻、言語文化専攻で定員を上回る合格者を出していただいたことは監督会として大いに感謝しなければならない。結果、表のとおり志願者125名に対し112名の合格者(うち女子20名)であった。

監督会10周年記念祝賀会を盛大に開催！！

平成14年3月8日（金）勝山館において、大学から関根副学長、柴田学生部長、渡部体育会長、同副会長はじめ数多くのご来賓の方々、関係各位の出席を得て盛大に開催された。

記念祝賀会に先立ち、監督委囑状が渡部敏体育会長から全監督に交付され、監督を代表して軟式庭球部の森川裕史監督から体育会発展に寄与したい、との力強いあいさつがあった。

次いで指導者講演会に移り、ご多用の中、講師をお引き受けいただいた筑波大学バレーボール部監督の都澤凡夫先生から「常勝チームを目指して」との演題でご講演をいただいた。富士フィルム時代のプレーヤーとしての活躍から、指導者として海外での活躍、筑波大学監督としてインカレでの優勝など貴重な体験談、また熱き指導のかずかずをご披露いただいた。特に全日本学生5連覇の偉業など常に全国のトップで活躍の指導者からの講演は実に興味深い内容であった。

記念講演会のあと、体育会発足10周年記念祝賀会が開催された。式次第等は以下のとおり。

あいさつ	体育会会長	渡部	敏
	監督会長	工藤	哲男
	学生部長	柴田	良孝
祝 辞	大学長	倉松	功
乾 杯	監督会初代会長	小藤	恭正
スピーチ	各監督から		
校歌斉唱			
三本締め	監督会副会長	佐藤	正

監督会は平成3年（1991）7月19日に東北学院同窓会館において設立総会が開催され発足した。初代会長の小藤バスケットボール部監督に多々のご尽力をいただいたあと、現在の工藤ラグビー部監督を会長に47名の監督で活動している。発足当時から変わらぬ情熱で学生を指導している監督さんも少なからずで心強いものである。

短 信

柔道部・・・柔道部の阿部文智コーチ（本学職員）が第51回全国青年大会（11月10日～講道館）柔道競技の個人戦無差別級の部で見事優勝。また団体戦においてもTGクラブ（本学OB中心）が決勝まで進出。2対2の内容差で惜敗し準優勝となったが全国を舞台に活躍した。

水泳部・・・小学校から中学、高校、東北学院大学水泳部と16年間も同じ学校で学んだ女子部員二人が地元山形でナント同じ会社に就職することとなった。偶然か、はたまた腐れ縁か？これからも二人三脚で頑張ってもらいたい。

自転車競技部・・・合宿所「輪心館」に念願の水洗トイレがこの4月に設置予定です。

ラグロス部・・・第2回となるOB・OG戦を11月に泉キャンパスラグビー場で開催。久々の試合も楽しかったのですが、音響設備準備や参加者掲載のパンフの用意と学生部員の運営面に感心させられました。もっと学生を支援しなければと思わされた一日でした。

表彰関係・・・仙台スポーツ賞受賞（平成14年1月14日～江陽グランドホテル）

第二ヨット部 松本 明子（経2）

第二ヨット部 沼田 恵美（経2）

仙台スポーツ奨励賞

個人→馬術部 萬 尚圭（経1）

剣道部 安田 大佑（経3）

剣道部 須田 夏美（商3）

団体→自転車競技部

ライフル射撃部（遊佐真奈美選手（英3）は全日本学生ライフル射撃選手権でも見事総合優勝を遂げた）

東北地区大学総体・第53回（平成14年度）大会は男女とも本学が優勝。男子は2年ぶり39回目、女子は4年ぶり16回目の優勝。

事務局から

- *1月17日の新年会に間に合わせて発行予定でございましたが原稿の集まりがイマイチで少し遅れてしまいました。前回とは違い少し凝ったものを狙ったのですが、所詮はシロウト。予想どおりの羅列調の会報となってしまいました。次号に乞うご期待！
 - *初めて短信コーナーを設けましたが、これは予想に反して(?)集まりませんでした・・・。
 - *監督会設立10周年記念式典では幹事が早くから勝山館に出かけて行って記念品の袋詰めやら会場設営に参加しました。手当ても払わず会費だけとってすみませんでした。
 - *TGスポーツの監督さんとして年2回の総会は貴重な情報交換の場であると思います。なにか要望、アイデアがありましたら事務局までご一報ください。一人でも多くの監督さんが集まる会にしたい、と毎回思います。TGスポーツの活躍は在学生、家族、同窓生、教職員、みんなが元気になれる最高の良薬です。今年も健康で頑張りましょう！！
-

平成15年度・キャンパスカレンダー

入学式・・・・・・・・・・4月 3日（木）仙台市体育館
授業開始・・・・・・・・・・4月10日（木）
科目登録・・・・・・・・・・4月17日（木）・18日（金）
監督会春季総会・・・・・・・・5月15日（木）TG会館
創立記念日・・・・・・・・・・5月15日（木）
後援会総会・・・・・・・・・・5月24日（土）泉キャンパス
前期試験・・・・・・・・・・7月16日（水）～23日（水）
オープンキャンパス・・・8月 1日（金）土樋キャンパス
夏休み開始・・・・・・・・・・8月 1日（金）～9月13日（土）
後期授業開始・・・・・・・・・・9月16日（火）
9月期卒業・・・・・・・・・・9月29日（月）
監督会秋季総会・・・・・・10月 2日（木）（案）
スポーツ推薦入試・・・・・・11月 中旬 泉キャンパス
同窓会100周年式典・11月15日（土）江陽グランドホテル
冬休み・・・・・・・・・・12月11日（木）～1月3日（土）
授業開始・・・・・・・・・・1月 5日（月）
監督会新年会・・・・・・・・・・1月17日（土）TG会館
後期試験・・・・・・・・・・1月19日（月）～24日（土）
入学試験（前期）・・・・・・2月 1日（日）～ 4日（水）
入学試験（後期）・・・・・・3月 9日（火）
卒業式・・・・・・・・・・3月24日（水）仙台市体育館

2003

東北学院大学体育会監督会

土 樋：9808511 仙台市青葉区 1-3-1
泉：9813196 仙台市泉区天神沢 2-1-1
多賀城：9858537 多賀城市中央 1-13-1
監督会事務局 Tel.022-264-6422

<http://www.tohoku-gakuin.ac.jp>